

H29地域協働研究（ステージⅠ）

H29-Ⅰ-19「中心市街地の活性化に向けた市民の連携と地域資源の活用に関する実践研究」

課題提案者：宮古市企画部復興推進課

研究代表者：盛岡短期大学部 内田信平

研究チーム員：岩間健、加藤敏也（宮古市企画部復興推進課）

研究関与者（パートナー）：北原啓司（弘前大学教育学部）

<要 旨>

本研究では、宮古市中心市街地の活性化を目指して、「まちづくり市民会議season3（第3期）」の活動を実施した。6月から9月までの間に市民参加のワークショップを4回実施し、宮古市中心市街地活性化のためのアイデアを実現するための作業を行った。10月15日には、自分達が考えたアイデアを実践するイベント「みやこ・わくわくストリート2017」を開催、多くの市民の方々に参加していただいた。11月には、振り返りのワークショップを行い、次年度の活動に向けて、成果と課題を共有した。

平成29年度の地域協働研究では、過去2年間の活動に「連携」と「地域資源」という視点を加えて取り組んだ。その結果、市民（グループ等）や事業者との連携の拡大を実現できた。また、まちなかに存在する伝統的な旧家の土蔵などの活用により、これらの地域資源が賑わいの核となりうる可能性が示唆された。

1 研究の概要（背景・目的等）

宮古市では、中心市街地拠点施設と市庁舎跡地の整備に際し、これまで2ヵ年実施した地域協働研究により、「中心市街地活性化」と「市民参画」をキーワードとして基本的議論や実践を試みるなかで、市民が当事者となりまちづくりに関わる＝「まちを育てる」という意識が芽生えてきた。

本研究では、さらに「行政主導から脱却し、市民主体の活動への移行、継続が必要」との仮説を立て、市民が将来に向けて関わり育てていく賑わいの場の創出を、実証活動を通して具体的に提案することを目指す。

2 研究の内容（方法・経過等）

これまでの活動のベースである「まちづくり市民会議」に加え、新たな構成員を募り、連携の輪を拡げる。このグループを核として、①「賑わい創出」に向けた企画の立案（ワークショップ）、②実証活動の実施、③検証と今後に向けた課題の整理、を行う。並行して、賑わいの場の核となる可能性を秘めた地域資源を対象として、歴史や活用可能性等の基礎的調査を行う。

平成29年度は、「まちづくり市民会議season3」メンバーによる市民ワークショップを計5回実施、そこで育んだアイデアを実現する場として「みやこ・わくわくストリート2017」を開催した。各回の実施内容を示す。

（1）第1回市民ワークショップ

平成29年6月17日(土) 市役所分庁舎 参加者：38名

まずは、第2期の活動の振り返りを実施。「まち歩き」を行い、昨年利用したスペースや、今期の活動で活用が期待できそうな旧家の蔵などを実際に見て確認した。

その後、世代間交流の場、スポーツを楽しむ場、旧家の蔵の活用、音楽やアートも楽しめるマルシェ、新たなまちなかでの楽しみ方…という5つのテーマを提示。興味のある分野ごとのグループを編成し、アイデアを出し合い、共有した。

（2）第2回市民ワークショップ

平成29年7月22日(土) 市役所分庁舎 参加者：38名

前回のワークショップで設定した5つのグループに分かれて、どのようなことをしたいか、必要なもの、解決すべきことなどについて、意見を出し合い、まとめた。いった。



（3）第3回市民ワークショップ

平成29年8月19日(土) 市役所分庁舎 参加者：35名

最初に、弘前大学の北原教授による「“まち育て”のススメ」と題した基調講演。その後、各グループで、プロジェクトの実現に向けて、実施内容や準備物などについて、具体的に話し合った。最後に、発表して参加者全員で共有した。

（4）第4回市民ワークショップ

平成29年9月23日(土) 市役所分庁舎 参加者：32名

プロジェクトごとに、当日の実施内容の最終的な確認を行った。現地でレイアウトを確認したり、展示内容の具体的な検討や、実施予定の企画を試行するなど、それぞれで準備を進めた。その後、各グループから報告を行い、プロジェクトごとに連携する企画について確認する機会となった。

また、翌日の9月24日には、学生たちが中心となって、「わくわくストリート2017」の会場の一つとなる、堀田家の蔵の「お掃除ワークショップ」を実施した。



（5）みやこ・わくわくストリート2017

平成29年10月15日（日）10時より、中央通商店街から新川町、市役所分庁舎エリアに3ヶ所の会場を設け、これまでのワークショップで育んだアイデアを実践する場「みやこ・わくわくストリート2017」を開催した。当日はおだやかな好天に恵まれ、多くの市民の方々に参加していただくことができた。また、伝統的な商家「東屋」を映画等の文化芸術活動に活用しているシネマ・デ・アエルプロジェクトとも連携。同プロジェクトによる、映画「廻り神楽」の上映と黒森神楽の演舞も、同日に開催され、こちらにも多くの市民の方々が鑑賞に訪れた。

中心市街地の駐車場や使われていなかった土蔵といった「空間」が、生き生きとした活動の「場所」に変わる様子を目の当たりにした1日となった。

当日実施した各プロジェクトの概要を以下に示す。

■みやこアクティブフェスティバル2017

市役所分庁舎の駐車場を利用した、子ども向けのスポーツ体験広場。話題のボルダリングやスラックライン等のニュースポーツに楽しくチャレンジしていた。



■みやつ子商店

商店街のお宅のガレージを利用して、駄菓子の販売と、昔あそびコーナーを設けた。子どもたちだけではなく、一緒に来ていたご家族も、楽しく過ごしていた。



■ほりた・デ・アエルー「みやこの店こ屋さん」けむぼー作品展

新川町の堀田家の土蔵では、昔の宮古の町並みを描いたイラストの作品展「みやこの店こ屋さん」を開催。来場者は「懐かしい」と話しながら、作品に見入っていた。



■まんなかマルシェ

中央通エリアで、ハンドメイド作品の展示・販売、市民作家の作品展示と、音楽を楽しむ場「うたのいち」を開催。多くの来場者で賑わった。



■まちなか収穫祭ーみやつこハロウィン

各イベント会場や、商店街のお店をつなぐことを目指した企画「まちなか収穫祭ーみやつこハロウィン」。イベント会場やお店の店先で、宮古の歴史が書かれた「秘伝の書」をもらうことができ、あちこちの秘伝の書を集めて1冊に綴じると、自分だけの書物が完成するという仕掛けである。

当日は、各プロジェクトへの来場者に対してアンケート調査を実施した（回答者数：121人）。その結果から、幅

広い年代の方々に楽しんでいただくことができ、次回への参加の意向も非常に高いことが確認できた。

（6）第5回市民ワークショップ

平成29年11月25日(土) 市役所分庁舎 参加者：38名

「みやこ・わくわくストリート2017」の振り返りと位置づけて実施。プロジェクトごとに、良かった点や次回に向けての課題についてまとめ、発表した。

3 これまで得られた研究の成果

- ・参加した市民メンバーへのアンケート調査の結果より、自らが当事者となって関わる＝「まちを育てる」という意識が芽生え、一定の成果（市民参加や反響など）を実感することができた。特に、他の団体との連携による活動の広がりの可能性も認められた。
- ・宮古市内のまちなかに存在する伝統的な旧家の土蔵などを地域資源として捉え、これらが賑わいの場の核となりうる可能性が示唆された。
- ・一方で、「特別な（その日だけの）イベントとしての活動だけではなく、自然に日常的に継続できるような活動も必要ではないか」という課題が認められた。また、参加メンバーは全員、本業の傍らにボランティア的に参加しているが、メンバーが無理なく活動を継続できるようにすべきという意見も挙げられた。

4 今後の具体的な展開

平成30年度は、中心市街地拠点施設の完成時期を迎え、市庁舎跡地整備の検討が本格化する。そこで、これまでに育まれた市民による活動の蓄積を生かしながら、その拡大と安定的な継続を目指し、「さらなる連携の拡大」と「エリア全体での地域資源の活用」を柱として活動することを目指す。市民による日常的な活動の実施、そしてその安定的な継続には、「さらなる連携の拡大」が必要と考える。これまでに参加した多様な主体の連携を維持し、さらにこれを拡大するための方策を検討する。これまでの活動で徐々に協力関係をつくってきたNPO関係者や、中心市街地の事業者・商店街関係者との連携を強化しながら、市街地が「稼ぐ」という視点での活動に向けて検討することが不可欠と考える。

また、旧家の土蔵を映画上映等の芸術活動の拠点として活用する動きや、中心市街地の空き店舗を飲食店やゲストハウスとして活用する動きが見られるようになってきている。これらを、「エリア全体での地域資源の活用」として捉え、平成29年度に試行的に活用した伝統的な旧家の土蔵などと連携しながら活用していくことで、エリア全体の賑わい創出へとつなげる方策を検討する。

5 謝辞

市民ワークショップに参加していただいた「まちづくり市民会議season3」メンバーの皆様、および協力していただいた関係者の皆様に、深く感謝申し上げます。